事前事後指導案

「水」から世界に広がる幸せと悲しみについて考えよう

１　対象：小学校高学年

２　目標：展示を通して世界の「水」の状況を知り、「水」が安全な暮らしのために必要なものであることを理解し、自分にできることは何かを考えることができる。

３　事前学習（１時間）における課題：

1 １日の水の使用場面や使用量を調べる。（お風呂、トイレ、手洗い、洗濯、洗顔、料理、飲用など）

・４年生社会科での学習を想起させ、改めて考えさせる。

・昨日学校を出てから今まで（約１日）、いつ水を使ったかを思い出す。

2 水を使用している中で無駄にしている瞬間や場面について考える。

（石鹸を使用している間に流れる水、シャンプーや洗顔、食器洗いの途中に無駄に流れる水など）

・何気無く流している水について考え、「もったいない」感覚をもたせる。

・４年生（社会科）で節水について考えたのにできていない日常生活を振り返る。

3 「水がない生活」を想像し、困る場面を考え、どうしたらいいのか考える。

・児童にとっての非日常が世界には日常として広がっていることを理解させるために認識の素地をつくらせる。

4 個人の意見をノートに整理する。（可能であれば学級の意見として模造紙等にまとめる。）

・展示見学後に振り返ることで、実際に世界にはそのような状況に置かれて生きている人々の存在やその気持ちを他人事ではなく、自分事として捉えさせる。

４　事後学習：

	○学習活動　Ｔ教師の言動　・子どもの意識	資料
導入	○事前学習における課題4を用いて見学前の考えを想起する。 Ｔ JICA の地球ひろばに行く前に学習したことを振り返ってみよう。 **「水」と安全な暮らしについてまとめよう**	事前学習における課題4のノートまたは模造紙等
展開①	○「水」展示から分かったことを発表する。 Ｔ展示を見て分かったことを発表してください。 ・井戸ができて安全な水が手に入るようになった国がある。 ・遠くの川に水汲みをしている国があった。 ・自分たちの生活は蛇口をひねれば水が出るから恵まれている。 ○バケツやタンクを持って感じたことを発表する。 Ｔここに水いっぱいのバケツがあります。持って歩いてみよう。 ・これを何往復も繰り返すのはきつい。 ・こぼしたらもったいないから、ゆっくり歩く。 ・でもそんなことしていると多くの水が得られずに日が暮れる。	展示の写真 バケツやタンク 写真「みんなで水くみ」（ガーナ）

展開②	○安全な水を得るための努力と苦労について考える。 T大変な思いをして水汲みをする人たちの気持ちを考えてみよう。 なぜそこまでして水を運ぶのかな。その子たちの本音はどうかな。 ・水汲みをしないと家族の生活が保障されない。 ・自分が学校に行けない（勉強できない）。 ・天候が悪くても、自分の体調がよくなくても、毎日の日課としてやらなくてはならないこと。みんなが困る。 ・近くで水が得られたり、運ばなくてもいい生活が送れるようになったりしてほしい。	パネル写真「水くみを手伝ってるの。大変なのよ」（ウガンダ 13 歳女）、「家には男が僕しかいないので力仕事は主に僕がするよ」（ナミギア、16 歳男）
終末	○安全な生活を送るためには水が必要であることを理解し、自分にできることは何かを考える。 T安全な水が手に入ると暮らしはどうなるだろうか。 ・清潔な水があれば衛生面の心配がなくなる。 ・水汲みに行かなくていいから、学校に行ける。 Tでは、日本に生きているみんなに今できることは何でしょう。 ・節水など水を大切にするために行動する。 ・水を得るために苦労している人々が世界にはたくさんいることを知った。水のありがたさを感じて生活したい。 ・井戸や水道の仕組みを作る取り組みについて調べてみたい。 ・世界の水の使用や排水の問題を調べないと解決できないよ。 ・下水道の整備について調べてみたらどうかな。	

５　評価：

展示を通して世界の「水」の状況を知り、「水」が安全な暮らしのために必要なものであることを理解し、自分にできることは何かを考えることができる。

①知識及び技能：

世界には決して安全な「水」とは言い難い生活があることを理解することができる。

②思考力、判断力、表現力等：

「水」と安全な暮らしを世界の状況から考え、自分の考えをもとに話し合い、日常生活において自分ができることが何かを判断することができる。

③学びに向かう力、人間性等：

水が安全な生活を送るために必要不可欠であることや世界には安全な水が確保できないことから安全な生活を送ることが難しい人々がいることを理解し、自分の行動について考えることができる。

６　発展：

パネル「水くみを手伝ってるの。大変なのよ」（ウガンダ 13 歳女）、「家には男が僕しかいないので力仕事は主に僕がするよ」（ナミギア、16 歳男）を自分たちで作り廊下など共有スペースに掲示し、水を入れたバケツやタンクを用意して体験コーナーを作り、展示を見にいっていない学年や学級の子どもたちにも考えてもらう。